

## 報道発表資料

(11月4日米国発報道発表資料 抄訳)

2009年11月20日

### GXS、クラウドコンピューティング導入により IaaS 市場をリード

GXS は Microsoft Windows® Azure を採用し、クラウド環境に新しいサプライチェーン分析アプリケーションを構築

**2009年11月4日メリーランド州ゲザーズバーグ発**—世界最大手の企業間電子商取引(B2B eコマース)ソリューションプロバイダーである米 GXS, Inc.(本社:米メリーランド州、以下「GXS」)は本日、IaaS(Integration-as-a-Service)市場に、クラウドコンピューティングを基盤とするテクノロジーの導入を積極的に推進していくと発表しました。GXS は、現在利用可能なサービスよりもさらに分析性やカスタマイズ性に優れたサービスを世界中の顧客に迅速に提供するために Microsoft Windows ® Azure の採用を決定、同社の B2B 電子商取引サービスの後ろ盾となる、より高度なビジネスインテリジェンスの実現を目指していきます。拡張性の高い標準化されたプラットフォームにより、Azure は限りないコンピューティングパワーを提供します。

現在、GXS が迅速に進めている Windows Azure の開発プロジェクトが実現すると、可視化やモニタリング、レポート、監査などに関するデータ情報を、より詳細に提供できるようになります。特定のビジネスプロセスや取引先との関係を含め、B2B トランザクションの量や価値、傾向をもっと深く把握することを望んでいる顧客にとって、これらは有用な手段となります。GXS は弊社顧客に代わり、注文書、請求書、事前出荷情報通知書、支払指示書など年間何十億件ものトランザクションを行っています。バイヤーやサプライヤーは、計画や分析するための取引量や、取引種別に関する過去の履歴など一定期間ごとのデータを必要としています。メタデータの維持管理や、カスタマイズされた履歴レポートの作成には、膨大な記憶容量が必要となり、その処理要件は時期によって大きく異なります。GXS は Windows Azure を採用することで、従来型のコンピューティングパラダイムでは到達できなかった規模の経済を実現し、詳細な分析結果とオンデマンド レポートの提供を可能にしました。さらにクラウド環境を利用することにより、顧客へのサービス価値をさらに高め、これらのデータを制限なく提供することが可能になります。現在、この先進的な分析サービスは、実際にお客様に試験調査を行っていただいております。来年には多くのお客様にご利用いただける予定です。

Windows Azure のパートナー戦略を担当するマイクロソフト シニアディレクター、Michael Maggs(マイケル マググス)氏は次のように述べています。「GXS は、Windows Azure がクラウド環境において、容易かつ効率的に最先端アプリケーションを構築し革新する手段となり得ることをはっきりと証明しました。私たちは GXS と緊密に連携し、IaaS における多くの可能性を追求しています。また、クラウドを基盤とした B2B 統合サービスが、あらゆる規模のあらゆる業種の企業に膨大な利益を与えることができる強固な市場機会になると確信しています。GXS とマイクロソフトが引き続き協力して潜在的な可能性を追求していけば、実現できることは更に多くあるでしょう。」

ITリサーチ最大手のガートナーが最近発表した報告書『Hype Cycle for Cloud Computing1』の中で、クラウドコンピューティングをさまざまなテクノロジー環境に取り入れて利用することの重要性を述べています。GXS がリーディングプロバイダーとして積極的に推進している IaaS が啓蒙活動期に入ったことは明らかです。ガートナーによれば、「従来型の電子商取引プロジェクト

トに IaaS を広範囲に利用することにより、IaaS の認知度は「生産性の安定期」に向かい着実に高まっている。複数企業での SOA プロジェクトや、クラウドコンピューティングと SaaS との統合プロジェクトに、IaaS が急速に採用されるようになれば、認知度の上昇は後押しされ、最終的にはここ数年のうちに「生産性の安定期」に達するだろう。」と述べています。

長年にわたり GXS が提供してきた IaaS モデルは、次のようなクラウドコンピューティングの主要原則をサポートしてきました。

- B2B の統合基盤とアプリケーションはサービスとして提供され、ネットワーククラウド内で管理される
- データの保管とコンピューティング資源に対して、ソフトウェアのライセンス費用やハードウェア購入の前払金は発生しない
- 月額サービス料は従量制をベースとし、取引量または処理量に応じて算出される
- B2B による取引は比例料金制とし、取引量の増減の算出は顧客側で迅速に行うことができる
- 標準化されたプラットフォームの大部分は仮想化基盤をベースにしている

GXS チーフ テクノロジー ストラテジストである John Radko(ジョン ラドコ)は次のように述べています。「GXS は、私たちのお客様がより早くより低コストで価値の高いアプリケーションを構築できるよう、クラウドコンピューティングの技術を利用しています。この分野の専門家であるパートナーの協力を得ることで、GXS は IaaS 市場での最先端技術の利用方法を革新し推進していきながら、当社の B2B 電子商取引サービスの維持管理にも注力できるのです。私たちはマイクロソフトと連携してアプリケーションのさらなる開発と革新に努め、GXS の分析サービス事業を確立してお客様にさらに価値あるサービスを提供していきたいと考えています。」

GXS は、アマゾン社や Nirvanix 社などのクラウドコンピューティング ベンダーとも協力し、自社の業務にさらに幅広くクラウドコンピューティングを導入する方法を模索しています。また、Web ベースでプログラミングしたアプリケーション プログラミング インターフェース(API)などのより柔軟性と拡張性のあるカスタマーアプリケーションを更に活用していく予定です。

## GXS について

GXS は、オンデマンド SCM(サプライチェーン・マネージメント)、企業間電子商取引(B2B eコマース)におけるリーディング プロバイダーです。米フォーチュン誌の「フォーチュン 500」社の 70%に当たる企業が、世界各国で GXS Trading Grid を採用し、サプライチェーン ネットワークの拡張、倉庫プロセスの自動化、電子決済管理、サプライチェーン可視化を行っています。GXS は、グローバル ネットワークを強みとし、全世界の取引先との連携支援、B2B アウトソーシングなどのサービスを通じて、サプライチェーンの活用とビジネスのためのインテグレーションを支援します。

GXS は米メリーランド州ゲーザーズバーグに本社を置き、欧米、アジア太平洋、中東、アフリカにまたがるグローバル ネットワークを展開しています。

GXS 株式会社は、米 GXS Inc. の 100%出資による日本法人です。詳しくは Web サイト(<http://www.gxs.co.jp/>)をご覧ください。

本文中のすべての製品およびサービスは各社の商標です。

本件に関する報道関係のお問合せ先

GXS 株式会社 マーケティング

石黒 佐知子

Tel: 03-5574-7545

Email: [gxs-pr@gxs.com](mailto:gxs-pr@gxs.com)